

未来に向けたまちづくり、 まちが大きく変わります

今、安来の街では新たなまちづくりの槌音が響き渡っています。合併後、10年以上が経過し、地方創生に向けた新たな事業が進められています。来年、完成予定の「総合文化ホール」と「新安来庁舎」。5カ年計画で進む「史跡富田城」整備。この特集では、三つの事業についてお知らせします。

総合文化ホール

「芸術の理想郷」という意味の込められた「アルテピア」は総合文化ホールの愛称です。市の文化と芸術の拠点となる総合文化ホールは、山陰自動車道北側（切川地区）で工事が進められています。

総合文化ホールは来年5月末に完成、開館は9月を予定して

います。1008人収容の大ホールと300人収容の小ホールを備え、様々な内容のイベントに対応できます。

現在、2台の大型クレーンが上下左右に動き、骨組みがホールの外観を形づくっています。このクレーンは遠くからでも、見ることが出来ます。飯梨川・

伯太川に挟まれた平野部に立地

し、周囲には安来の山々を望むことができます。その遙か向こうには大山がそびえています。

設計にあたっては、こうした

環境をイメージしたデザインが

随所に取り入れられています。

現在、工事の一部は外壁の工程

に移っています。エントランス（入口）周囲の外壁は、コン

クリートの打ち放しですが型枠

に杉板を利用。自然の木目が周囲

の山々を連想させ、周辺環境

との一体感を演出します。外観

は川のせせらぎと竹林をイメージ

したストライプ状の流れをモチーフ

としています。

一方、内部工事については9

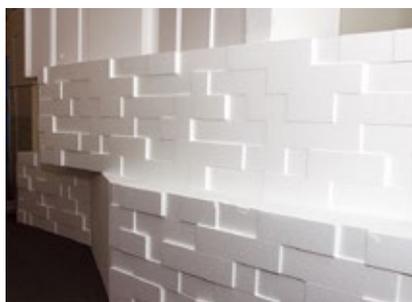
月頃から取り掛かる予定です。

その核となる大ホールは、楽器

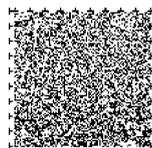
の核となる大ホールは、楽器



▲外壁には周辺の景観をイメージすることができるようにデザイン。写真の外壁では杉板の型枠を使用し、自然な壁面を演出。



▲大ホール壁面の模型。壁面を凹凸にし、「豊かな音響」を奏でることができます。





新安来庁舎



【アルテピア指定管理者】
 (有)アクティブ・プロ・(株)JTB
 中国四国IC事業部 共同事業体
 代表 小林慎一さん

私たちは次のことを目指しています。市民の皆様が質の高い芸術文化を楽しむことができること。様々な活動を通じて豊かな生活を過ごすことができること。新しい施設は、大勢の方に訪れていただける文化芸術活動の『Exchange Fun Base』（楽しめる交流拠点）にしたいですね。

▲基礎部分の工事が進む新庁舎。鉄骨鉄筋コンクリート4階建の入り形状がしやすいです。

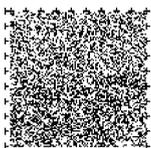
4月に発生した熊本地震では自治体の庁舎が倒壊し、救助や避難などの災害活動に大きな支障をきたしました。安来庁舎の東側敷地で建設を進めている新庁舎は、災害時の拠点施設として機能するように設計されています。現在の基準で最も高い耐震基準を採用。自家発電設備も備え、庁舎機能が継続できるようにしています。新庁舎の南側（市民会館跡地）に

は、緊急時に避難場所として機能する防災公園を整備する計画です。新庁舎の建設工事は現在、基礎工事がほぼ終わり、今後は建物本体の鉄骨を立ち上げます。木戸川に沿った新庁舎は、人々を迎え入れるデザインです。さらに北側の国道9号から南側の防災公園への連続性のある一体的な利用が可能となるよう計画しました。自然換気や採光をはじめ、LED照明など省エネルギーにも配慮した庁舎としています。完成は来年5月の予定です。新庁舎の完成後は、引き続き現庁舎の解体や駐車場、防災公園の整備を進めていきます。

や歌声などの生音を重視した計画になっています。大・小ホールは、音楽演奏に必要な「豊かな響き」が確保されるよう準備が進められています。10月8日と11月14日には、開館に向けた盛り上げを図るため、市内でのクラシックコンサートなどを企画（詳しくは広報紙8月号26ページをご覧ください）。一年後に迫ったオープンに向けて、着々と準備が進められています。



右：くい打ち工事（3月）の様子。最大直径1200mmの杭を設置しています。左：旧市民広場にあった植栽は、新庁舎の外構で活用する計画です。



史跡富田城跡整備事業

これまで台形にしか見えなかった山頂は、凹凸がはっきり分かるようになりました。12月から5カ年計画で整備を進めている月山富田城跡。第一期の工事では、山頂部数十メートルと登城道である七曲り部分の木の伐採が終わっています。

この工事後、山頂からは島根半島、広瀬の町並み、南側の中国山地と、ほぼ360度を見渡すことができます。一方で、足元は山の急峻さをうかがい知ることができません。改めてこの地方を治めるのに有効、そして、守備には有利な城であることを実感することができません。

難攻不落の山城と言われるだけあって山頂部の周囲は危険。現在は、山頂部分に転落防止の柵の設置を行っており、その後は、七曲り部分の登城道の整備を行います。路面の修復や手すり等の整備をする計画です。国内有数の山城である月山富田城跡を、多くの観光客の皆さんに安全に観光していただけるよう

取り組んでいきます。

秋以降に予定されている第二期工事では、千畳平および太鼓壇周辺部分の整備に取り掛かります。木々に埋もれていた石垣や曲輪群があらわになり「戦うために築城された城」の様子を明らかにしていく計画です。また、併行して説明板や誘導看板などのサイン整備、歴史資料館改修工事を進めていきます。

整備事業のため、城跡は一部、立入禁止区域を設けています。市民の皆さんにはご迷惑をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。



▶山頂部から広瀬町を望む。これまで木々のために視界が遮られていました。大内・毛利氏との合戦の舞台を俯瞰で見ることができます。また、三の丸の下には「西袖ヶ平」と伝えられる曲輪も確認できるようになりました。

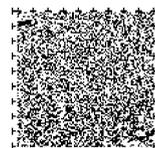


大口町歴史民俗資料館学芸員
西松賢一郎さん

5年後の城郭が楽しみです

戦国期に富田城の城主であった堀尾氏ゆかりの愛知県大口町の職員が視察。主任学芸員・西松さんは、「整備に着手されてから初めて来ました。景観が格段によくなり、戦国の世に名をとどろかせた、生きた富田城の姿を身をもって体験できました。5年後が楽しみです」と話しています。

▶武士の館が復元されている「花の壇」から山頂を望む（5月に撮影）。七曲りや曲輪が確認できるようになりました。



各事業の完成予定（計画）

事業名	完成予定年月	工期
総合文化ホール 建設事業	平成 29 年 5 月	平成 27 ～ 29 年度
安来庁舎建設事業	平成 30 年 5 月	平成 27 ～ 30 年度
史跡富田城跡 整備事業	平成 32 年 3 月	平成 27 ～ 31 年度

※安来庁舎は平成 29 年 5 月完成。その後、既存庁舎解体・附属棟建設・外構工事を実施。



総合文化ホールの完成予想図



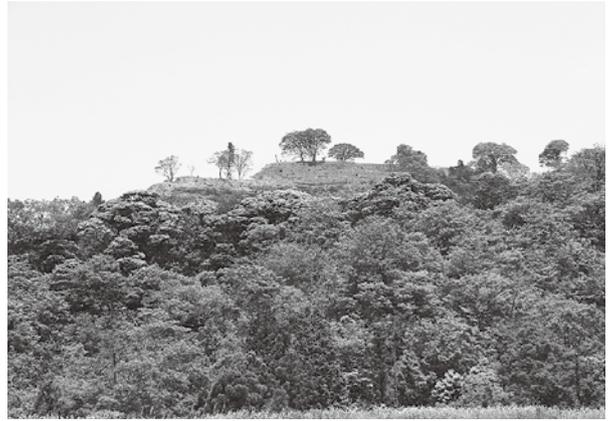
新安来庁舎の完成予想図



史跡富田城跡整備事業のイメージ図

※今後も定期的に広報紙で事業の様子を紹介していきます。

※この特集の内容は 7 月末時点の状況です。



上：南側の富田山荘から山頂部を望む。山頂部分の凹凸がよくわかります。

中：登城道である七曲りから山中御殿を見下ろすことができるようになりました。

下：「西袖ヶ平」から三の丸を望む。左側には登城道が見えます。

今後の工事予定

● 10 月末まで：引き続き山中御殿、七曲り、山頂部が立ち入り禁止となります。

● 秋以降：新たに千畳平、太鼓壇、馬乗馬場地区の工事を予定しており、一部立入禁止区域を設ける予定です。

問い合わせは文化課（TEL 23-3242）へ。

